

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4393100013 | | |
| 法人名 | 株式会社 ケア サポート | | |
| 事業所名 | グループホーム 若葉園(北館) | | |
| 所在地 | 熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年2月17日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年3月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市南熊本三丁目13-12-205号 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年 2月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンドと町の中心にあり、「若葉園杯グラウンドゴルフ大会」は町の1,2番目に入る大会に成長し、若葉園の名前も浸透し喜んでいただいています。また学童保育があり園内に子供の声が響き渡り、利用者の環境に適度の刺激を与えています。利用者に関しますと、季節感を持っていただくように散歩、バスハイク等大変喜んで頂いています。敬老会には学童の子供たちが手作りのプレゼントをしてくれたり、学童主催の夏祭りには家族の方も参加頂き、毎年楽しまれている行事となっています。またこれから小規模多機能ホームとのふれあい、交流を密にしていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年に開設したホームは地域密着型として地域に先駆的な役割を担い、小規模多機能と共生施設とが一体となって地域との交流促進に努めている。今年度は職員体制の変革期にあり、職員同士の連携を強化させ、入居者の重度化傾向に職員の気づきや観察力のみならず予測する力を発揮させた転倒予防や理念の一つである残存能力の活用により出来る事の喜びを分かち合いながら、和やかな日常を支援している。また、一人暮らしの入居者等終の棲家としての期待も大きく、家族の思いに応え、管理者のリーダーシップのもと協力医療機関と家族、全職員のチームワークにより家族にも安心と納得のある最期を支援している。ホームとしての目標達成に向けた姿勢等志向意欲も高く、入居者の“目指すは100歳”と目標達成に職員が寄り添いながら穏やかな生活にグループホームの神髄が表れたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を施設の目立つ所に掲示し、利用者の尊厳、プライバシーは特にミーティング時に何回となく話している。またホーム内の数箇所に掲示し職員の意識の向上をはかっている。 | 開設時からの理念であることにより現状に即しているかを検討し今年度も継続している。地域密着型ホームとしての意義や役割を反映した6項目の理念を平易な言葉で具現化し、高齢化・重度化するなかで理念の一つである「残存能力を活かした生活」に出来る事で心の高まりを、出来る事の喜びを分かち合いたいと残存能力の活用方法を全員で検討している。理念は玄関等への掲示により意識向上を図り、年間目標の達成に向け全員が真摯に取り組んでいる。 | 職員の入れ替わりがあり、新たな基盤づくりの再スタートとして捉え、チームケアの強化等に取り組まれている。ホームとしての目標や個々も目標が掲げられており、目標達成に向けた振り返りの機会や検証することで更なる理念の共有化として期待される。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事、祭り等に参加したり今年より同じ敷地内のに小規模多機能ホーム、共生施設の利用が始まり、地域の人の繋がりが少しずつ増えている。また、共生施設では毎日、学童クラブがあり子供たちとの交流も増えている。 | 同敷地内の共生施設という環境を生かし、学童保育等の子どもたち等との交流、定期的なボランティアの訪問等多岐に亘って交流している。学童主催の夏祭りには地域の子どもたちから高齢者まで集い、ホームにもボランティア(傾聴)の訪問や中・高校生の体験学習を受け入れている。また、道路掃除時等地域の人々からの声かけ等もあり、若葉園杯のグラウンドゴルフ大会を継続し、法人としての啓発に努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 若葉園杯のグラウンドゴルフ大会も年2回行う事で地域の高齢者の方との信頼度も増している。また大会挨拶の時、認知症についてお話し、理解を深めてもらっています。地域の会合にも参加をはじめています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議に、行政、地域包括、民生委員、区長、家族代表、利用者等参加していただき、利用者の状況、運営状況、家族からの意見交換を行っている。また感染症、苦情処理等の勉強会を行っている。 | 行政や地域包括、区長や民生委員及び家族等をメンバーとして小規模多機能ホームと合同で開催している。各事業所の現状や活動報告の他、充実した意見交換が行われ、出された要望や苦情対応処理等を資料をもとに説明される等目的意識を高くして開催されている。また、地域情報、特に高齢者情報を把握する機会や行政との情報交換の場として生かされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 行政からは国、県よりの連絡情報が入ればすぐに知らせてもらうし、園からは利用者の情報、相談等、足を運び協力をしてもらっている。また、利用料の減額等の相談も行っている。 | 近くにある役場という立地的な環境や運営推進会議にも毎回の参加が得られる等協力関係が構築し、管理者は頻繁に足を運び情報交換を行い、利用料支払等の相談等に適切な対応が得られている。社協による研修会等に参加し、質の向上に反映させている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 拘束・虐待0宣言の標語を貼り、職員一人ひとりが気をつけ利用者の権利を優先し、利用者に合わせてケアを行っている。スピーチロック等も十分気をつけている。 | 「拘束・虐待を絶対しません やりません」とする宣言を掲げ、マニュアルの整備や研修会を開催しており、全員が拘束等の弊害を正しく認識している。管理者は「根くらべです、気長に行きましょう」と職員に投げかけ、職員同士も声かけにはお互いが注意喚起している。また、徘徊も無く家庭的な雰囲気が入居者の落ち着いた生活環境として生かされている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティング時は利用者に対し、自分がされて嫌なことはしない、言われて嫌なことは言わないなど社内研修時には常にサインを送っている。入浴時のボディチェックは特に注意をしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 契約時の本人、家族への説明は重要視し、管理者は研修会に参加し、社内ミーティング時に職員に話し、利用者一人ひとりについて活用できるように伝えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居利用の申し出があった場合、利用者、家族を訪問し契約内容を十分説明したうえで、申請して頂き入居時に重要事項説明書と共に、もう一度説明を行い理解をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の話を良く聴きながら、説得ではなく、納得していただくよう心がけている。また、家族とのコミュニケーションも大切にし即対応をしている。また、月一回利用者状況報告書を作り郵送している。 | 入居者には日々のかかわりの中で良く会話を交わしながら要望等を聞き取りしている。家族には毎月管理者及び担当職員による報告書により情報を発信し、訪問時やモニタリング時等要望等を収集している。家族から入居者の訴えが代言されたこともあり、家族への説明と共に運営推進会議の中で開示し、苦情処理体制を説明している。 | 家族との良好な関係が築かれていることはアンケートや敬老会の参加等に表出している。家族会はあるが今年には開催されていない。家族の行事参加時に家族同士の交流の場を作ることを検討いただき、家族会の再開に向けご尽力いただきたい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング時に代表者は、経営、運営の意向を伝え、各職員の意見、要望を聞く時間を設けている。また何時でも管理者に相談し必要な時は代表者に報告をする。改善したところ等は家族にも報告をしている。 | 毎月のミーティングやリーダーミーティング等職員の意見や要望等を収集したり、アンケートを行っている。今年は職員体制の変革期に、法人全体の協力体制を強化し、高齢化・重度化の中で事故や入院等の諸問題も全職員が連携したケアに取り組んでいる。管理者は職員とのコミュニケーションを図り、職員から出された必要物品等の相談等管理者を通じて代表に出されている。代表も職員の表情や体調を把握し声かけされている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者、職員個々の努力や実績を把握し、楽しく働けるように職場環境の整備に努めている。休日シフトも概ね希望を聞いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は資格取得の費用を全額負担し職員個々のやる気と、自信を持って業務についてもらうように支援をしている。また法人外の研修に職員が参加できるように調整を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域では、グループホーム連絡会が組織されており交流会、研修会等開催され参加している。今年は県の連絡会を球磨人吉でこない、ネットワークの構築に努めた。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所まえの聞き取りにより本人の不安を取り除くためにケアマネ、施設関係者、医療関係者などにも相談し本人が安心できるニーズの把握に努める。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設見学など家族の方としてもらい、契約時に本人はもとより家族の方の不安、要望等を聴き、ケアマネ、施設関係者、医療関係者等に情報の収集に努め、定期的に家族への連絡をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回面接時に、ケアマネにも同席を願い本人、家族との聞き取りでどういったサービスが必要かを十分に話し合い、定期的に家族へ連絡をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 無理にではなく利用者に家事、(炊事、掃除、洗濯物干し、たたみ等)をお願いし、利用者と職員が一緒の時間を共有している。残存能力に応じ、出来ることは積極的に参加できるよう声かけをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時、レクレーションなどに参加を呼びかけ利用者、家族、職員が会話の出来る雰囲気を作りをしている。敬老会には家族全員に参加してもらい、昼食は利用者の方の居室でご家族水入らずにて食べて頂く。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人の面会時には再度の訪問をお願いし、出身地区の催し物、親戚関係の集まりごとには、家族や職員付き添いで出かけられる支援を行っている。 | 知人の面会時を写真に撮り訪問者にも手渡し再来をお願いしたり、入居者の生活圏であった4地区の祭りへの外出、グラウンドで開催される中体連、郡内の競技会の応援等地域住民との交流を支援している。自宅へ帰られた時には近くの住民にも声をかけ、法等への参列支援等馴染みの関係が途切れない様支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者個々の性格や意向を汲み取り、席の配置換えなど無理がないように職員が間に入り気配りをしている。全体で出来る作業、レクリエーションなどして頂いている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後、家族に今後も介護に関する相談窓口になることを伝えている。また病院や施設等に面会に行きお話をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し、入居後も定期的、必要時にアセスメントを実施し本人の意向を把握するようにしている。意思疎通が困難な場合は家族の情報や入居者の行動、表情などで汲み取るようにしている。 | アセスメントで得た情報を基に、1・2週間は表情・行動等確認を徹底している。入居者は物欲も少なくなり、表情や行動等により推察したり、笑顔をバロメーターとして捉え、自己決定ができるようゆっくりとした声かけ等工夫し、家族からの情報も活用しながら本人本位の生活に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前のアセスメントにより本人、家族、居宅ケアマネより生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取りをし、生活パターンを再確認し職員と共有しばらつきのない支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察、情報交換、記録等により、総合的に現状の把握に努めている。本人が嫌がる作業やレクリエーションに、無理には誘わず様子観察をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を大切に、管理者、職員で担当者会議を開催しそれを基に本人に合った計画を作成し、定期的なモニタリングを行い、計画に沿っているかチームで確認している。 | 本人や家族の意向をもとに、毎月のケアカンファレンスや3ヶ月毎のモニタリングにより継続可否を見極めている。支援経過に入居者及び家族の考え方を記載し、プランに反映させている。また、本人・家族・管理者・看護介護職員等入居者に関わる関係者が集う等退院に向けたカンファレンスの開催等により現状に即した詳細で具体的なプランが作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアの実践・結果は個々に担当者が記録し、職員全員が確認し、本人の変化を見落とさないように介護計画に反映するようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族と連絡を取りながら病院受診、個々の買い物支援、また、散歩の希望があれば近くの公園まで一緒に散歩をいています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけ、警察、消防には非常時の対応について指導を仰いだり、共同の訓練をしている。普段の生活においては、地域の祭りや、花見には積極的参加をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医とは、常に密な連絡、連携体制が取れており定期的にホームを訪問、必要時には往診などの対応を行っている。熱発、痛み等で受診した翌日にはDrより状況確認の電話を頂き助かっています。 | 連携体制の確立された協力医を入居者全員がかかりつけ医とされ、専門医等はこれまでの医療機関を継続されている。協力医からの往診や個々に応じた受診には職員が同行し受診報告書での職員間の共有や、家族へは状況報告書の他随時報告説明している。ホームでの体調管理については運営推進会議でマニュアルを説明し、日常の健康チェックや看護職と連携し、異常の早期発見や早めの受診に繋げている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は入居者の心身状況の把握に努め、その情報を看護職、かかりつけ医の看護師へ伝え、利用者が適切な受診や看護を速やかに受けられるように支援をしている。毎日看護師が居るようにシフトも工夫している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時、医療機関に本人の情報提供を密にしている。利用者の安心感を与えるために、面会も毎日行き、時間帯では食事の介助もしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けてホームで出来る支援を管理者、職員、かかりつけ医と協議し状態変化時の対応も医師の指示の下に行うことを確認している。また、本人、家族にも十分の説明をし、必要時にはかかりつけ医より説明を行ってもらっている。 | 高齢化や重度化が進行し、予測される事例については機会ある毎に家族に説明し意向を確認している。又、状態変化時は主治医を交えた話し合いや家族内の意向の統一を図ると共に同意書を交わし看取りの為のプランを作成し、主治医との連携や家族の協力の下、尊厳ある看取りを支援している。職員は研修に参加したりミーティングでの話し合いで不安に対処し、本人を一人にさせないようにチームでのケアを実践している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 日頃より利用者一人ひとりのADLについて話し合い急変や、事故発生時に備え看護職が中心に訓練をしている。また緊急時に備えマニュアルを目に付くところに貼っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加協力を呼びかけている。今回は中学生、ボランティアの参加があり内容も充実したものでした。またマニュアルの掲示、ミーティング時のマニュアル説明を常時行っている。 | 今年度は町の総合防災訓練との避難場所として合同で開催され、中学生や女性消防隊が参加し搬送の訓練などを実施している。又、近隣には有事の際(特に夜間時など)の協力依頼をしており、マニュアルの整備や、コンセントや避難通路・ホーム周り等の自主点検を実施する事で日頃からの意識付けとしている。災害時の避難場所ともなっており、AEDを設置し、備品や備蓄を準備している。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の尊厳やプライバシー保護は理念にあり人生の先輩、自分の親を接するように対応をしている。声の大きさ、声かけは常に目上の人に対する敬語で接するようにしている。トイレ誘導時には特に注意をしている。 | 「尊厳ある生活」の理念の下、一人ひとりの人格を尊重し、職員は方言を交えた自然体での対応や目上の方に対する敬語での話しかけに努めている。トイレ誘導時などは羞恥心やプライバシーに配慮し耳元での声かけやさり気なく対応している。個人情報取り扱いを遵守し守秘義務の誓約を交わし情報漏えい防止に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が話しやすい環境を作り、ゆっくりとした時間の中で傾聴し、より良い自己決定に繋がるように促し、声かけをしている。判断が出来ない利用者の方は、表情や動作にて判断をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースを大切に、誘う時も無理に誘わず何をしたいか希望を聞き、その時その時を無理なくすごしてもらっている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の意向により衣類の決定をしてもらい、理・美容店は本人、家族の意向により決めて頂いて送迎をしている。また、衣類の買い物も同行してもらい気に入ったものを購入して頂いている。行事ごとの化粧の手伝いも行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は、定期的に個々に嗜好調査を行っており、季節や行事に応じた献立を提供している。また、食材の下拵え、配膳、洗い物等、職員と一緒にしている。皆さんの希望のメニューがあればメニューの変更も行っている。 | 季節ごとの基本メニューを参考に入居者の希望を取り入れ変更しながら調理しており、入居者も食材の買い出しや下ごしらえ等出来る事に関わっている。行事食や学童の子供たちと餅つきを楽しんだり、個々に合わせた形態や状態によっては補助食品を利用し、苦手な食材に対しては代替食で提供している。懐メロを流しながらのゆっくりとした食事は、職員も入居者の間に座り介助や食事のペース等を見守り会話しながらの楽しい時間となっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 各利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取が少ない時は高カロリー食品を使用。水分は摂取量をチェックし夜間の水分補給うながしをしている。また、ゼリー等で代用をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後支援をし、自立の方は最後にチェックをしている。協力歯科医師も定期的にボランティアで口腔内のチェックに来ていただいている。義歯の洗浄も薬を使い週2回行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別の排泄状況をスタッフがチェック表にて確認し定期的な声掛け、誘導をしている。また一連の利用者の行動で判断しプライバシーに気を使いながら誘導を行っている。 | 排泄や水分摂取量をチェックし、自立の方への見守りや尿意のない方には適時誘導トイレでの排泄を支援している。又、介助時の衣類の上げ下げについても声かけしながら自尊心に配慮している。夜間時は排泄用品を検討したり、ポータブルを使用する事で安全で安心の支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | チェック表より排便状況を確認し、日頃の水分補給の徹底や食事の料理法にも工夫をし、必要時には腹部マッサージ施行を実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴の隔日でも入浴をして頂いているが、希望者は毎日でも入浴可。また、SDLを勘案しながらシャワーなどを利用している。菖蒲湯、ゆず湯も楽しみにされており、時折となりの温泉へ行くこともある。基本的に入浴はスタッフ2名体制で行っている。 | 一日おきを目途に入居者の希望を組み入れながら支援している。個々の状態に合わせたシャワー浴や、立位補助のポジショニングバーを取り付ける等安全に配慮し、入浴介助は2名体制とし職員の勤務状態によっては法人内で協力している。しょうぶやゆず湯等を取り入れ、近くの温泉センターでの入浴は入居者の楽しみとなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼寝等自由に行ってもらっているが、昼夜逆転がないように時間を見計らって職員が接している。夏はエアコンにて気温の調節をしている。冬はエアコン、電気毛布、湯たんぽ等で安眠を促している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が利用者個々の薬剤の情報を確認できるようまとめてあり、薬が変わった時点での申し送りは確実にしている。また病状の変化などはかかりつけ医に随時報告、相談をし、安全、安心な支援に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の残存能力を継続させるために、それぞれの得意の作業を無理なくして頂いている。嗜好品の規制はない。また、褒めることで意欲を維持してもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 公園や近隣への散歩希望者に応じ、またその人のストレス具合を見計らって外出の支援を行っている。買い物や、美容院等の希望により出かけている。桜の花見、菖蒲の花見、彼岸の観音様参り、彼岸花の観賞、紅葉見学など多彩である。 | 周りの環境に恵まれたホームは隣接の公園や散歩コースを設定し入居者の体調や状態に合わせて出かけており、物産館やお祭り広場・石倉でのおひな様も徒歩圏内での開催であり、気軽に見物を楽しんでいる。又、受診時には回り道をしてドライブしたり、季節毎の花見のバスハイク、家族の協力での外出・外食等に出かけられる事もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小金額の所持は家族の合意の上で認めている。また、本人が希望される時は使えるように支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は自由に行っているが、電話の場合本人の精神的状態を見ながら使用してもらっているが、ほとんどの場合つないでいる。年賀状、暑中見舞い等の作成支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間では、常に安全、清潔に努め、玄関、リビングには家族や職員が持ってきた季節のはなを飾っている。壁面には楽しくなるような図案を考え利用者と一緒に作り楽しんでいる。空調管理は定期的に行い、テレビ、音楽などの環境も作っている。 | 玄関には家族が活けた花や季節の飾りが置かれ、リビング内も入居者と共に取り組んだアイデア溢れる貼り絵や写真で温かく家庭的な雰囲気である。ソファでテレビ鑑賞したり洗濯物干しやたたみ等入居者の穏やかな日常が垣間見れ、自然に囲まれた環境の中、温湿度管理や清掃が徹底され居心地良い共用空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下には数人で座って談話できる作り付けの畳敷きのスペースがあり、気のあった人たちが利用をしている。また、歩行訓練中の休憩の場所になっています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は広く、自分の使い慣れた筆筒、椅子などの家具を持ち込んでもらい、環境の変化を抑えている。御飯も居室希望の場合、対応をしている。 | ゆとりある居室を自分の住まいとして使い慣れた家具や家族写真等を持ち込み、タンスの上の位牌に供え物をされる方もおられる。家族からのお祝いの電報や自分の写真が載ったホーム便りを壁面に掲示したり、花や写真に囲まれた部屋等自由にレイアウトされ、担当職員と一緒に衣替えや部屋作りに取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来るだけ入所時のADLの低下を抑えるため、手すり、介助用具を使い、出来ることは自分で行ってもらい、最後に支援するようにしている。部屋には個々の部屋が分るようにプレートを付けている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4393100013 | | |
| 法人名 | 株式会社 ケア サポート | | |
| 事業所名 | グループホーム 若葉園(南館) | | |
| 所在地 | 熊本県球磨郡多良木町大字多良木1,537番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年2月17日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年3月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市南熊本三丁目13-12-205号 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年 2月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>多良木駅から徒歩で3分のところに位置し、周りにはえびす温泉、えびす物産館、多目的グラウンドと町の中心にあり、「若葉園杯グラウンドゴルフ大会」は町の1,2番目に入る大会に成長し、若葉園の名前も浸透し喜んでいただいています。また学童保育があり園内に子供の声が響き渡り、利用者の環境に適度の刺激を与えています。利用者のに關しますと、季節感を持っていただくように散歩、バスハイク等大変喜んで頂いています。敬老会には学童の子供たちが手作りのプレゼントをしてくれたり、学童主催の夏祭りには家族の方も参加頂き、毎年楽しまれている行事となっています。またこれから小規模多機能ホームとのふれあい、交流を蜜にしていきたい。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| Empty space for external evaluation comments |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を施設の目立つ所に掲示し、利用者の尊厳、プライバシーは特にミーティング時に何回となく話している。またホーム内の数箇所に掲示し職員の意識の向上をはかっている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事、祭り等に参加したり今年より同じ敷地内のに小規模多機能ホーム、共生施設の利用が始まり、地域の人との繋がりが少しずつ増えている。また、共生施設では毎日、学童クラブがあり子供たちとの交流も増えている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 若葉園杯のグラウンドゴルフ大会も年2回行う事で地域の高齢者の方との信頼度も増している。また大会挨拶の時、認知症についてお話し、理解を深めてもらっています。地域の会合にも参加をはじめています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議に、行政、地域包括、民生委員、区長、家族代表、利用者等参加していただき、利用者の状況、運営状況、家族からの意見交換を行っている。また感染症、苦情処理等の勉強会を行っている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 行政からは国、県よりの連絡情報が入ればすぐに知らせてもらうし、園からは利用者の情報、相談等、足を運び協力をしてもらっている。また、利用料の減額等の相談も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 拘束・虐待の宣言の標語を貼り、職員一人ひとりが気をつけ利用者の権利を優先し、利用者に合わせたケアを行っている。スピーチロック等も十分気をつけている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ミーティング時は利用者に対し、自分がされて嫌なことはしない、言われて嫌なことは言わないなど社内研修時には常にサインを送っている。入浴時のボディチェックは特に注意をしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 契約時の本人、家族への説明は重要視し、管理者は研修会に参加し、社内ミーティング時に職員に話し、利用者一人ひとりについて活用できるように伝えている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居利用の申し出があった場合、利用者、家族を訪問し契約内容を十分説明したうえで、申請して頂き入居時に重要事項説明書と共に、もう一度説明を行い理解をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の話を良く聴きながら、説得ではなく、納得していただくよう心がけている。また、家族とのコミュニケーションも大切にし即対応をしている。また、月一回利用者状況報告書を作り郵送している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング時に代表者は、経営、運営の意向を伝え、各職員の意見、要望を聞く時間を設けている。また何時でも管理者に相談し必要な時は代表者に報告をする。改善したところ等は家族にも報告をしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は管理者、職員個々の努力や実績を把握し、楽しく働けるように職場環境の整備に努めている。休日シフトも概ね希望を聞いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は資格取得の費用を全額負担し職員個々のやる気と、自信を持って業務についてもらうように支援をしている。また法人外の研修に職員が参加できるように調整を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域では、グループホーム連絡会が組織されており交流会、研修会等開催され参加している。今年は県の連絡会を球磨人吉でこない、ネットワークの構築に努めた。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所まえの聞き取りにより本人の不安を取り除くためにケアマネ、施設関係者、医療関係者などにも相談し本人が安心できるニーズの把握に努める。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設見学など家族の方してもらい、契約時に本人はもとより家族の方の不安、要望等を聴き、ケアマネ、施設関係者、医療関係者等に情報の収集に努め、定期的に家族への連絡をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回面接時に、ケアマネにも同席を願い本人、家族との聞き取りでどういったサービスが必要かを十分に話し合い、定期的に家族へ連絡をしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 無理にではなく利用者に家事、(炊事、掃除、洗濯物干し、たたみ等)をお願いし、利用者と職員が一緒の時間を共有している。残存能力に応じ、出来ることは積極的に参加できるよう声かけをしている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時、レクレーションなどに参加を呼びかけ利用者、家族、職員が会話の出来る雰囲気を作りをしている。敬老会には家族全員に参加してもらい、昼食は利用者の方の居室でご家族水入らずにて食べて頂く。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 知人の面会時には再度の訪問をお願いし、出身地区の催し物、親戚関係の集まりごとには、家族や職員付き添いで出かけられる支援を行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者個々の性格や意向を汲み取り、席の配置換えなど無理がないように職員が間に入り気配りをしている。全体で出来る作業、レクレーションなどして頂いている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後、家族に今後も介護に関する相談窓口になることを伝えている。また病院や施設等に面会に行きお話をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前のアセスメントにより本人の希望、意向を確認し。入居後も定期的、必要時にアセスメントを実施し本人の意向を把握するようにしている。意思疎通が困難な場合は家族の情報や入居者の行動、表情などで汲み取るようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前のアセスメントにより本人、家族、居宅ケアマネより生活歴、嗜好、サービス利用の過程等詳しく聞き取りをし、生活パターンを再確認し職員と共有しばらつきのない支援に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 管理者、職員は毎日の生活支援の中で、観察、情報交換、記録等により、総合的に現状の把握に努めている。本人が嫌がる作業やレクレーションに、無理には誘わず様子観察をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を大切に、管理者、職員で担当者会議を開催しそれを基に本人に合った計画を作成し、定期的なモニタリングを行い、計画に沿っているかチームで確認している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアの実践・結果は個々に担当者が記録し、職員全員が確認し、本人の変化を見落とさないように介護計画に反映するようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族と連絡を取りながら病院受診、個々の買い物支援、また、散歩の希望があれば近くの公園まで一緒に散歩をいています。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 区長、民生委員、ボランティアの訪問を地域に呼びかけ、警察、消防には非常時の対応について指導を仰いだり、共同の訓練をしている。普段の生活においては、地域の祭りや、花見には積極的参加をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医とは、常に密な連絡、連携体制が取れており定期的にホームを訪問、必要時には往診などの対応を行っている。熱発、痛み等で受診した翌日にはDrより状況確認の電話を頂き助かっています。看とりに関しては毎日的確な指示や往診があり職員の安心できる支援に繋がった。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 職員は入居者の心身状況の把握に努め、その情報を看護職、かかりつけ医の看護師へ伝え、利用者が適切な受診や看護を速やかに受けられるように支援をしている。毎日看護師が居るようにシフトも工夫している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時、医療機関に本人の情報提供を密にしている。利用者の安心感を与えるために、面会も毎日行き、時間帯では食事の介助もしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期に向けてホームで出来る支援を管理者、職員、かかりつけ医と協議し状態変化時の対応も医師の指示の下に行うことを確認している。また、本人、家族にも十分の説明をし、必要時にはかかりつけ医より説明を行ってもらっている。今回の看取りで先生との連携が大変上手くいき家族、先生、職員との信頼関係が出来て良かった。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 日頃より利用者一人ひとりのADLについて話し合い急変や、事故発生時に備え看護職が中心に訓練をしている。また緊急時に備えマニュアルを目に付くところに貼っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時の訓練には自治会、消防署、消防団に参加協力を呼びかけている。今回は中学生、ボランティアの参加があり内容も充実したものでした。またマニュアルの掲示、ミーティング時のマニュアル説明を常時行っている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の尊厳やプライバシー保護は理念にあり人生の先輩、自分の親を接するように対応をしている。声の大きさ、声かけは常に目上の人に対する敬語で接するようにしている。トイレ誘導時には特に注意をしている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が話しやすい環境を作り、ゆっくりとした時間の中で傾聴し、より良い自己決定に繋がるように促し、声かけをしている。判断が出来ない利用者の方は、表情や動作にて判断をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースを大切にし、誘う時も無理に誘わず何をしたいか希望を聞き、その時その時を無理なくすごしてもらっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の意向により衣類の決定をしてもらい、理・美容店は本人、家族の意向により決めて頂いて送迎をしている。また、衣類の買い物も同行してもらい気に入ったものを購入して頂いている。行事ごとの化粧の手伝いも行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は、定期的に個々に嗜好調査を行っており、季節や行事に応じた献立を提供している。また、食材の下拵え、配膳、洗い物等、職員と一緒にして頂いている。皆さんの希望のメニューがあればメニューの変更も行っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 各利用者に応じた料理形態で提供している。また食事の摂取が少ない時は高カロリー食品を使用。水分は摂取量をチェックし夜間の水分補給うながしをしている。また、ゼリー等で代用をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後支援をし、自立の方は最後にチェックをしている。協力歯科医師も定期的にボランティアで口腔内のチェックに来ていただいている。義歯の洗浄も薬を使い週2回行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個別の排泄状況をスタッフがチェック表にて確認し定期的な声掛け、誘導をしている。また一連の利用者の行動で判断しプライバシーに気を使いながら誘導を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | チェック表より排便状況を確認し、日頃の水分補給の徹底や食事の料理法にも工夫をし、必要時には腹部マッサージ施行を実施している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴の隔日が入浴をさせて頂いている。また、ADLを勘案しながらシャワーなどを利用したり清拭対応でADLの低下を押えている。菖蒲湯、ゆず湯も楽しみにされており、時折となりの温泉へ行くこともある。基本的に入浴はスタッフ2名体制で行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼寝等自由に行ってもらっているが、昼夜逆転がないように時間を見計らって職員が接している。夏はエアコンにて気温の調節をしている。冬はエアコン、電気毛布、湯たんぽ等で安眠を促している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が利用者個々の薬剤の情報を確認できるようまとめてあり、薬が変わった時点での申し送りは確実にしている。また病状の変化などはかかりつけ医に随時報告、相談をし、安全、安心な支援に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の残存能力を継続させるために、それぞれの得意の作業を無理なくして頂いている。嗜好品の規制はない。また、褒めることで意欲を維持してもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 奥様が他施設ご利用でその面会に付添支援を行っている。また、ストレス具合を見計らって外出の支援を行っている。買い物や、美容院等の希望により出かけている。桜の花見、菖蒲の花見、彼岸の観音様参り、彼岸花の観賞、紅葉見学など多彩である。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小金額の所持は家族の合意の上で認めている。また、本人が希望される時は使えるように支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は自由に行っているが、電話の場合本人の精神的状態を見ながら使用してもらっているが、ほとんどの場合つないでいる。年賀状、暑中見舞い等の作成支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間では、常に安全、清潔に努め、玄関には家族や職員が持ってきた季節のはなを飾っている。壁面には楽しくなるような図案を考え利用者と一緒に作り楽しんでいる。空調管理は定期的に行い、テレビ、音楽などの環境も作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下には数人で座って談話できる作り付けの畳敷きのスペースがあり、気のあった人たちが利用をしている。また、歩行訓練中の休憩の場所になっています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は広く、自分の使い慣れた筆筒、椅子などの家具を持ち込んでもらい、環境の変化を抑えている。御飯も居室希望の場合、対応をしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来るだけ入所時のADLの低下を抑えるため、手すり、介助用具を使い、出来ることは自分で行ってもらい、最後に支援するようにしている。部屋には個々の部屋が分るようにプレートを付けている。 | | |